

TSIホールディングス  
TSIインディ

# 主力事業に資源集中

## 下期も東スタ主体にコスト削減

TSIホールディングスは下期(9月～13年2月)、東京スタイルを中心に、不採算店の整理などによるコスト構造改革を継続するとともに、主力事業への投資を拡大し、収益の大幅改善を目指す。通期では連結営業赤字を前期の69億円から5億円に減らし、来期黒字化を目指す。

上期は東京スタイルで「ラヴドゥローズ&コー」の国内事業と「マイドル」「ピスティー」「プリドル」「ケイタマルヤマ・トウキョウ・パリス」を廃止。他ブランドも含めて低収益・不採算の297店を閉鎖し、店舗数を1031にした。下期も1ブランドの販売を終了し、

他ブランドと合わせて60店前後の閉鎖を計画している。

TSI全体では、上期に続いて広告宣伝費を削減、物流業務の一部を外部委託から自社管理に変えて、物流費も削減する。不採算店整理による人件費の削減額を含め、今期は販売・管理費を13億4300万円削減す

る。

併せて、収益が見込める主力事業に経営資源を集中し、粗利率を改善させる。東京スタイルでは分野別に四つあった事業部を下期から二つに集約し、「アリスバリー」「セーヌドゥー」「スタイルミー」など既存主力ブランドを強化する。企画・生産体制を見直して期中企画比率を上げ、プロパー消化率の上昇を目指す。

グループ全体では、上期に増収増益を達成したセレクトショップのナノ・ユニバース、サンエー・インターナショナルの

「ナチュラルビューティーベリック」などへの投資を拡大する。上期に6店を出したナノ・ユニバースは下期にアウトレットを含め、11店出し、期末店舗数を61とする。

通期の連結売上高はセールの分散化による夏物の売上げ減

と残暑による秋物販売の苦戦などの影響で、期初予想の1970億円から1880億円(前期比27.2%増)に下方修正した。ただし「構造改革は予定以上に進んでいる」「三宅正彦会長兼社長」ことから、営業損益は期初予想通りとする。

## 建設中の南青山ビルの運営見直し

# 自社店舗やめ賃貸へ

TSIホールディングスは、東京・南青山に建設中のビルの

運営方針を見直す。当初はTSIグループが販売する複数ブランドの店舗と他企業を主体としたオフィスで構成する予定だったが、自社店舗の展開はやめる。

同ビルは東京スタイルが00年12月に取得した南青山5丁目の土地(敷地面積954.3平方メートル)に建設中で、来年10月末に完成する予定。建物は地下1階、地上6階で、中島芳樹前社長在任中は地上1～2階を自社店舗にする予定だった。新しい

計画では地上1～2階を他企業の店舗向けなどに賃貸し、6階までをオフィス向けとする。オフィス向けのフロアも「TSIグループ企業が入るかどうかは未定」(三宅正彦会長兼社長)という。

同社は今期(13年2月期)か

ら、手元資金を確保する目的で、主に東京スタイルが所有する不動産や投資有価証券の運用方法の見直しに本格的に着手し、営業所など一部資産の売却を進めている。南青山のビルの運営を見直すのは「資産の有効活用策」の一環。